２０２６年１０月２５日 宗教改革主日礼拝説教
「十字架にある義しさ」（ローマ３章１９～２８節）

〇ローマ３章２０節

「律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされない」

＊義とされる：御心と求めに適った〈神の愛する子〉と見做される

問：だれが、いつ、神の前で義とされることを願うのか？

＊神を信じない人は、いつまで経っても〈神の義〉を得たいと思わない。

☆信じる〈あなた〉が、義とされたいと求める時は、いつなのか。

今日のみことば：ローマ３章２４節

「ただキリスト・イエスによる贖(あがな)いの業(わざ)を通(とお)して、神(かみ)の恵(めぐ)みにより無償(むしょう)で義(ぎ)とされる」

＊贖い：神が、キリストの命と引き換えに、すべての人の命を取り戻したこと

「神は このキリストを立て、その血によって信じる者のために 罪を償う供え物となさいました。」（２５節）

＊罪を償う供え物：十字架の上で罪の報い、罰を受けるために献げた尊き命

※十字架のゆえに、絶えず神は、あなたの歩んで来た道は義しいと認められる。

＊聖書翻訳本文は日本聖書協会『聖書 新共同訳』からの引用です。